

## 職業・家庭科(職業) 実態調査の実施にあたって

### I 実施方法

1. それぞれの児童生徒の段階を、「職業生活」、「情報機器の活用」、「産業現場等における実習」、の3つの領域に沿って観点別に把握する。
2. 職業・家庭科(職業)の実態調査においては、各領域の単元中や単元終了後、年度末に評価する。
3. 「知識及び技能」については、それぞれの段階の指導項目にしたがい、○、△、無印で評価する。「思考力、判断力、表現力等」については、それぞれの段階の指導事項の調査項目にしたがい、○、△、無印を記入する。
4. ○は調査項目を達成しており、いつでも、一人でできるものにつける。△はどんな条件だとできるのかを備考欄に端的に記入する。
5. △や無印の部分について、今後、授業づくりや指導計画作成の際に、指導事項の要素を反映できるように検討する。

### II 留意点

職業・家庭科(職業) 実態調査表を使用するにあたり、以下の点に留意をする。

- 知識及び技能は、習得状況として判断する。文末表現は「～できる」「～分かる」とする。思考力、判断力、表現力等は、子どもの姿として判断しているため、文末表現は「～している」とする。
- 現状、指導要領解説等から転記し、調査項目を作成しているため、分かりづらい部分もあるが、今後、より具体的な子どもの姿として、表すことができるように調査項目を改定していく。
- 調査項目が設定できていない段階や領域は、今後、加筆を行っていく。
- 活動例については、実態調査を基に授業や活動を行った際に、今後の参考として加筆していく。

A 職業生活

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能	調査項目	判定
中1段階	職業について関心をもち、将来の職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。	ア 働くことの意味	(ア) 働くことの意味	仕事には生計を維持する目的があることが分かる。	
				働くことには自己実現を図るという目的があることが分かる。	
				働く場に所属し、仕事において自分の能力・適正を発揮することは社会の一員としての役割を果たせるということが分かる。	
				仕事をするために、職業の名称や仕事の内容が分かる。	
				仕事をするために、生産物や製品及び商品の名称が分かる。	
				商店や会社の役割などが分かる。	
		イ 職業	(イ) 職業生活に必要な知識や技能について知ること。	仕事をするために、職業の名称や仕事の内容が分かる。	
				仕事をするために、生産物や製品及び商品の名称が分かる。	
				商店や会社の役割などが分かる。	
				道具や工具などを安全や衛生に気を付けて使用することができる。	
				担当する作業内容や方法が分かる。	
				終了の見通しをもって取り組むことができる。	
イ 職業	(イ) 職業生活を支える社会の仕組み等があることを知ること。	職業生活上の悩みを周囲の人に相談することができる。			
		各市区町村の福祉課などの役割が分かる。			
		手洗いや身支度、作業に使用する材料の準備ができる。			
		作業手順を理解し、作業に使用する道具を正しく使って作業を行うことができる。			
		作ること、育てること、運ぶこと、計数や計量を行うなどの作業について基礎的な技術を用いて作業に取り組むことができる。			
		半完成品を整理しながら作業することができる。			
イ 職業	(イ) 作業課題が分かり、使用する道具等の扱い方に慣れること。	完成品の計数や整理をしながら作業をすることができる。			
		使用した材料や道具の片付け、諸点検などが分かる。			
		作業時の適切な服装や姿勢が分かる。			
		作業に使用する材料や道具、機械等の適切な扱い方が分かる。			
		作業をとおして、道具の扱い方に慣れることができる。			
		作業を一定時間続けることができる。			
イ 職業	(イ) 作業の持続性や巧緻性を身に付けること。	簡単な作業を丁寧にすることができる。			
中2段階	働くことに対する関心を高め、将来の職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。	ア 働くことの意味	(ア) 働くことの意味	仕事には生計を維持する目的があることを理解することができる。	
				働くことで自己実現を図ることができるということを理解することができる。	
				働くことで社会の一員としての役割を果たすことができるということを理解することができる。	
		イ 職業	(イ) 職業生活に必要な知識や技能を理解すること。	製作・生産・生育に関する作業の分担を理解することができる。	
				福祉サービス等の内容や利用方法について理解することができる。	
				職業生活を支える社会の仕組み等があることを理解すること。	
				仕事に安定的に取り組むための健康管理の仕方が分かる。	
				製品の材料となる素材や生育する生物の等の保管や管理を行うことができる。	
				確実な作業や整理整頓を行うことができる。	
イ 職業	(イ) 作業課題が分かり、使用する道具や機械等の扱い方を理解すること。	作業に必要な工具類や農具を安全に使用することができる。			
		作業に必要な工作機械を安全に使用することができる。			
イ 職業	(イ) 作業の確実性や持続性、巧緻性等を身に付けること。	作業をより長い時間続けることができる。			
		より確実に作業を行うことができる。			

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	調査項目	判定	活動例
中1段階	職業について関心をもち、将来の職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。	ア 働くことの意味	(イ) 意欲や見通しをもって取り組み、自分の役割について気付くこと。	作業工程における自分の分担や、作業全体の中で担う自分の役割に気付いている。		○作業工程表を用いて活動内容や終了の確認を行う活動 ○生徒自身が必要な情報を判断し友だちに伝え合う活動
				職業生活に関する情報と作業や実習を結びつけて考えている。		○治具や補助具を活用した作業学習
				職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について気付くこと。		
				安全に作業ができるように道具の扱い方を工夫している。		
				作業に当たり安全や衛生について気付く、工夫すること。		
				衛生的に作業ができるように身だしなみなどや道具の扱い方を工夫している。		
		イ 職業	(イ) 職業生活に必要な健康管理について気付くこと。	作業や実習に向けて食事や睡眠などをしっかりとっている。		
				職業生活に必要な健康管理について気付くこと。		
				体調が優れないときには、近くの人に伝えている。		
中2段階	働くことに対する関心を高め、将来の職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。	ア 働くことの意味	(イ) 意欲や見通しをもって取り組み、自分と他者との関係や役割について考えること。	同じ場で同じ仕事をする人と協力するために自分の仕事や他者の仕事の関連について考えている。		○他者と協力する場面のある作業学習
				同じ場で同じ仕事をする人と協力するために相手の心情を考えている。		
				同じ場で同じ仕事をする人と協力するために望ましいかわり方や態度を考え、接している。		
				職業生活に関する情報と作業や実習を結びつけて考えをまとめ、発表している。		○様々な仕事や職業に生活を支える仕組みについて調べる活動 ○自分が将来働きたい仕事に就くためにはどのような力が必要かを考える活動 ○作業の課題を解決するために工夫をして取り組む活動
				職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について、考えて、発表すること。		
				より確実に安全性が高められたり、衛生的に作業できるように考えて工夫している。		
		イ 職業	(イ) 作業上の安全や衛生及び作業の効率について考えて、工夫すること。	効率的な作業の方法を考え、工夫している。		
				継続して作業をするために自身の健康管理について考えている。		
				職業生活に必要な健康管理について考えること。		

段階	知識及び技能			
	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
高1段階	ア 勤労意識	(ア) 勤労の意義を理解すること。	生計を維持する目的のために自ら仕事に励むことの大切さを理解することができる。	
			自己実現を図るために自ら仕事に励むことの大切さを理解することができる。	
			社会の一員としての役割を果たすために自ら仕事に励むことの大切さを理解することができる。	
	イ 職業	(イ) 職業生活に必要な実践的な知識及び技能を身に付けること。	職場の組織や、職場では組織の一員として働くことが分かる。	
			勤務時間や残業などの労働時間、賃金、年次休暇などの基本的な労働条件が分かる。	
			健康保険や、雇用保険、年金などの制度のあらましが分かる。	
			職種によっては資格等が必要であることが分かる。	
			仕事に関する伝達、作業伝票の処理、日報の記入など簡単な実務を正確に行うことができる。	
			円滑に作業を行うことができる。	
			標準的な動作を順守することができる。	
			正確な作業を一定時間継続することができる。	
			作業目標の達成を意識して積極的に取り組むことができる。	
自分の作業を最後までやり遂げることができる。				
時間帯や場所に応じた服装、動作、挨拶、言葉遣いができる。				
イ 職業	(イ) 職業生活を支える社会の仕組み等の利用方法を理解すること。	障害福祉サービス等での、就職に向けた相談や準備・訓練、就職活動や雇用前支援、雇用定着支援、離職・転職時の支援等の利用方法が分かる。		
		障害福祉サービス等での、生活の場や生活費、生活に対する介助、余暇活動を含めた日中活動への支援の利用方法が分かる。		
イ 職業	(イ) 材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生育活動等に関する技術について理解すること。	取り扱う材料に応じて加工の仕方を変えることができる。		
		育成する生物に合わせて育成環境を調整することができる。		
		原材料や収穫物、半製品、完成品の管理や保管方法が分かる。		
		扱う原材料の名称が分かる。		
		必要な分量を量って使用することができる。		
		材料や製品を整理して保管することができる。		
イ 職業	(イ) 使用する道具や機械等の特性や扱い方を理解し、作業課題に応じて正しく扱うこと。	道具や機械等の用途が分かる。		
		品物の運搬、製品や材料の長さや重さなどの測定、材料や半製品の加工、品物の梱包などについて使用する道具や機械等を適切に選定することができる。		
イ 職業	(イ) 作業の確実性や持続性、巧緻性等を高め、状況に応じて作業すること。	道具や機械の手入れを行うことができる。		
		正確な作業を安定して取り組むことができる。		
		身体の円滑な動きや、細やかな手指の動きで作業を行うことができる。		
		作業する場所の温度や湿度などの環境に応じて身支度を整えたり、作業量の増加や急な作業内容の変更にも対応することができる。		
イ 職業	(イ) 自分の作業状況に応じて他者に協力を要請したり、他者からの要請に応じるなど他者と協力して作業を進めることができる。	自分の作業状況に応じて他者に協力を要請したり、他者からの要請に応じるなど他者と協力して作業を進めることができる。		

段階	思考力、判断力、表現力等				
	段階の目標	指導事項	調査項目	判定	
高1段階	ア 勤労意識	(イ) 意欲や見通しをもって取り組み、その成果や自分と他者との役割及び他者との協力について考え、表現すること。	取り組んだ結果から自分の役割を果たせたかについて振り返り表現している。		
			分担して取り組んだ結果から協力の仕方について考えて表現している。		
			自分の役割を確実にやり遂げる意欲や作業の効率性、仲間との連帯感について考えて表現している。		
	イ 職業	(イ) 職業生活に必要な健康管理や余暇の過ごし方について考えること。	⑦ 作業や実習における役割を踏まえて、自分の成長や課題について考え、表現すること。	自分の役割を確実にやり遂げることで得られた成果を作業全体への貢献から確認し、他者に伝えたり、日誌などに文章でまとめたりしている。	
			⑧ 生産や生育活動等に関わる技術について考えること。	作業を通して品質の良い製品や作物を安全に作るための要点を技術面から確認して考えている。	
			⑨ 作業上の安全や衛生及び作業の効率について考え、改善を図ること。	危険な場所や状況に注意を払い、健康に悪影響を与えるような状況避けて作業をしている。	
			⑩ 職業生活に必要な健康管理や余暇の過ごし方について考えること。	材料を大切に扱うとともに、無駄のない作業動作や動線について考えている。	
				翌日の体調を考慮した睡眠時間の確保や決められた休憩時間の有効活用、食事の取り方など日常生活における健康管理の方法について考えている。	
				定期的な歯科検診や健康診断等の受け方、公共施設やサービスの利用方法について考えている。	
				地域のサークル活動や福祉サービスの利用など休日の過ごし方について考えている。	
				職場でのつきあいについて考えている。	
				福利厚生施設の等の利用について考えている。	

活動例
<p>○職場体験や産業現場等の実習</p> <p>○他者と作業のペースを合わせて行うような活動場面がある活動</p>
<p>○障害福祉サービスの見学や利用の登録</p> <p>○品質のよいものを製作する活動</p> <p>○観察の視点を示した職場見学</p> <p>○安全や衛生に関する表示を確認し自分や他者の安全や衛生に気を配って作業をする活動</p>

段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定			
高2段階	職業に関する事柄について理解を深めるとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付けるようにする。	ア 助労意識	(ア) 助労の意義について理解を深めること。	自分たちが取り組んでいる生産や生産活動等が社会貢献につながる事が分かる。			
				上記のことを理解して働くことの意義を実感することができる。			
		イ 職業	(ア)	⑦ 職業生活に必要な実践的な知識を深め技能を身に付けること。	職場の役割やその役割について分かる。		
					部、課及び係などの機能分担について理解することができる。		
					労働時間及び勤務時間、賃金、福利厚生及び資格と給与等との関係について基本的な条件を理解することができる。		
					健康保険や、雇用保険、年金などの制度と活用方法を理解することができる。		
					職業能力開発促進法に基づき実施されている様々な技能検定や資格の所得について分かる。		
					製品や作物には規格や基準が定められている場合があることを理解することができる。		
					規格や基準に応じた正確な作業を行うために定められた手順に従うことができる。		
					判定基準に基づいて製品や作物の良否を判断したり、作業の標準的な動作を遵守したりすることができる。		
					給料や年金の管理について理解することができる。		
					病気になったときの健康保険の取扱いなどが分かる。		
					⑧ 職業生活を支える社会の仕組み等の利用方法について理解を深めること。	雇用に関する各種援助や障害福祉サービス等から自分の生活に必要なサービスを選ぶことができる。	
						上記のサービスについて利用申請や手続き等の仕方が分かる。	
					⑨ 材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生産活動等に関する技術について理解を深めること。	材料や収作物、半製品、完成品の保管、在庫状況の把握を正しく行うために材料や製品、収作物の特性を理解することができる。	
						材料や製品、収作物の特性に合わせて、安全や衛生に留意して保管することができる。	
						仕事に関する作業指示書、在庫表、報告書などが分かり、その記入や読み取りなどの実務を適切に行うことができる。	
						危険な場所や状況を予測したり、不衛生にならないよう日常的に対応したりしながら、製品や作物をより多く生産することができる。	
						取り扱う材料に応じて、切断・接着・塗装などの加工をすることができる。	
					⑩ 使用する道具や機械等の特性や扱い方の理解を深め、作業課題に応じて効果的に扱うこと。	工具や農具、工作機械、運搬用の機器、製造機器などの特徴や構造、扱い方が分かる。	
工具や農具、工作機械、運搬用の機器、製造機器を効率を考慮して確実に扱うことができる。							
道具や機械などを点検し、日常的な手入れや簡単な修理を行うことができる。							
⑪ 作業の確実性や持続性、巧緻性等を高め、状況に応じて作業し、習熟すること。	作業の要領や特に注意を要する箇所が分かる。						
	自分の作業を評価し必要に応じて修正することができる。						
	作業工程について全体の流れが合理的になるように調整することができる。						
	作業工程について材料や完成品の配置を工夫したり、その運搬方法を工夫したりすることができる。						
			機械が不調になった場合や不良品が出た場合に適切に対応することができる。				

段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定	活動例		
高2段階	職業に関する事柄について理解を深めるとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付けるようにする。	ア 助労意識	(イ)	他者との協力による効率的な作業や他者との望ましい関わり方について考えている。		○地域での販売や作業を通じた地域貢献活動	
				目標をもって取り組み、その成果や自分と他者との役割及び他者との協力について考え、表現すること。	共に働く仲間と目標を達成して達成感などを実感した経験を振り返り、作業や実習を通して協力する意義について考えて表現している。		
		イ 職業	(イ)	⑦ 作業や実習において、自ら適切な役割を見いだすとともに、自分の成長や課題について考え、表現すること。	作業の結果を振り返り、自分の能力や適性について理解を深めている。		○自己評価や他者評価をとおして自分の作業を客観的に振り返る活動 ○治具や補助具の工夫を主体的に行う活動
					自分の得手不得手や作業の特質等を踏まえて適切な役割を選択している。		
				⑧ 生産や生産活動等に係る技術に込められた工夫について考えること。	製品の製造方法や生物の育成方法等の技術について、それぞれの工程においてどのような工夫がなされているかについて考えている。		
					上記の工夫と安全性や品質、収量などの効率、環境に対する負荷、経済性との関係について考えている。		
				⑨ 作業上の安全や衛生及び作業の効率について考え、他者との協働により改善を図ること。	他者と協調して効率よく仕事をしている。		
					他者と必要に応じて相談したり、助言を得たりして課題を解決している。		
				⑩ 職業生活に必要な健康管理や余暇の過ごし方の工夫について考えること。	継続的に勤めるために求められる自らの健康を維持する方法を積極的に考えている。		
					職場での休憩時間の過ごし方を積極的に考えている。		
					福祉サービスや参加できる生涯学習の活動、地域の施設の活用など休日の計画的な過ごし方を考えている。		
					職場のレクリエーションやサークル活動への参加、福利厚生施設の利用の計画を考えている。		

B 情報機器の活用

段階	知識及び技能		思考力、判断力、表現力等		活動例
	段階の目標	指導事項	調査項目	判定	
中1段階	職業について関心をもち、将来の職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。	コンピュータ等の情報機器の初歩的な操作の仕方を知ること。	情報機器、固定電話や携帯電話、ファクシミリ等の通信機器など職場や学校、家庭で様々な情報機器が使われていることが分かる。	情報機器を使って気付いたことを他者に伝えている。	○情報機器を教師の指示を聞きながら実際に使用する活動
			情報機器、固定電話や携帯電話、ファクシミリ等の通信機器などの初歩的な扱い方が分かる。	情報機器の扱い方について他者に伝えている。	
			情報機器を扱う上でのルールやマナーが分かる。	情報機器を扱う際のルールやマナーについて他者に伝えている。	
			インターネット利用上のトラブルを回避する方法が具体的に分かる。	インターネット利用上のトラブルの回避方法について考えて他者に伝えている。	
段階の目標	指導事項	調査項目	判定	活動例	
中2段階	働くことに対する関心を高め、将来の職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。	コンピュータ等の情報機器の基礎的な操作の仕方を知り、扱いに慣れること。	情報機器の操作の仕方を意識しなくても円滑に操作することができる。	情報機器を実際に使用して情報収集をしている。	○SNSや通信アプリケーションソフトの適切な使い方を学ぶ活動
			インターネット上の情報収集や情報発信が自分の生活に及ぼす影響が分かる。	画像や映像などにより体験したことや自分の考えを表現している。	
			情報機器を扱う上でのルールやマナー、人権侵害の防止、危険を回避する具体的な方法が分かる。		
段階の目標	指導事項	調査項目	判定	活動例	
高1段階	職業に関する事柄について理解するとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付けるようにする。	情報セキュリティ及び情報モラルについて理解するとともに、表現、記録、計算、通信等に係るコンピュータ等の情報機器について、その特性や機能を理解し、操作の仕方が分かること。	インターネット等の情報通信ネットワークを安全に利用する上で必要となる情報の管理方法や情報機器を使用する際のルールやマナーが分かる。	インターネットを利用して情報収集を行うとともに、収集した情報をもとに考えをまとめている。	○表計算ソフトウェアを使った数量の計算や管理をする活動 ○文書作成ソフトウェアによる報告書の作成
			情報通信ネットワーク上で発信した情報は誰でもアクセスでき、一旦拡散した情報は削除できないことが分かる。	プレゼンテーションソフトウェアを利用してデータを作成し、将来就きたい仕事や、仕事の内容、目標等を発表している。	
			個人認証の仕組みがあることが分かる。		
			不用意にデータをダウンロードしたり、不審なファイルを開いたりしてはいけないことが分かる。		
			表計算ソフトウェアを使用して作業で育成した農産物や作成した製品などの数量や出納簿の管理や計算ができる。		
			文章作成ソフトウェアとデジタルカメラなどを組み合わせて活動報告を作ることができる。		
			電話やファクシミリの基本操作が分かる、仕事の要件を正確に伝えたり、受け取りたりすることができる。		
段階の目標	指導事項	調査項目	判定	活動例	
高2段階	職業に関する事柄について理解を深めるとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付けるようにする。	情報セキュリティ及び情報モラルについて理解するとともに、表現、記録、計算、通信等に係るコンピュータ等の情報機器について、その特性や機能を理解し、目的に応じて適切に操作すること。	インターネット等の情報通信ネットワークを活用することの長所を十分に理解することができる。	学校行事の開催等を地域に周知するチラシやパンフレット、ポスターの作成時に分かりやすく文字や画像を加工して表現している。	○表計算ソフトウェアの数式を使った数量の計算や管理をする活動 ○ファンクションキーなどを使った効率の良い文書による報告書の作成 ○チラシの作成 ○プレゼンテーションソフトを活用した発表
			パスワードなどの管理の重要性が分かり、情報漏洩しない方法をとることができる。	産業界等における実習に向けて実習先までの経路などを調べて資料を作成している。	
			コンピュータへの不正な侵入やファイルやデータを守るために、コンピュータウイルス対策ソフトウェアのインストールと更新が必要であることが分かる。	実習終了後に、成果や反省点、感想をまとめてプレゼンテーションソフトで発表している。	
			情報通信ネットワーク上のルールやマナーの順守、危険の回避、他者の人権の配慮など、情報通信ネットワークを適正に活用することができる。		
			氏名、住所、電話番号や顔写真などは利用するメディアや情報を発信する場面によっては使用すべきでないことが分かる。		
			クレジットカードやキャッシュカード、マイナンバーカード、マイナンバーなどの個人情報の取り扱いには特に注意する必要があることが分かる。		
			目的に応じて文章作成ソフトウェアのファンクションキーを活用した操作ができる。		
			目的に応じて表計算ソフトウェアの数式やグラフの活用などができる。		
			画像ソフトウェアの加工処理ができる。		
			段階の目標	指導事項	

C 産業現場等の実習

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能	調査項目	判定	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	調査項目	判定	活動例
中1段階	職業について関心をもち、将来の職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。	職業や進路に関わることについて関心をもち、調べたりすること。		自分の身近な地域にある職場やそこで働く人、仕事の内容や職場での生活について分かる。 職場見学や卒業生の情報などから将来的に自立した生活がどのようなようになるかが分かる。 職場見学や卒業生の情報などから職場や家庭での過ごし方が分かる。		将来の職業生活に必要な事柄について触れ、課題や解決策に気づき、実践し、学習したことを伝えるなど、課題を解決する力の基礎を養う。			身近な製品がどのように作られているかを調べ表現している。 身近な商店等でのやりとりを調べ表現している。 進路選択に向けて希望する進路や職業等について考えている。		○職場見学で働く人の職業生活について調べる学習活動
中2段階	働くことに対する関心を高め、将来の職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。	職業や進路に関わることについて調べて、理解すること。		直接働く人と関わりながら働く活動の大切さが分かる。 働く上で、職場のきまりが分かり守ることの大切さが分かる。 働く上で、健康を維持することの大切さが分かる。		将来の職業生活に必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践し、学習したことを振り返り、考えたことを発表すること。			実際の実習から、将来の進路について考えている。		○産業現場等の実習及び事後の進路学習
高1段階	職業に関する事柄について理解するとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付けるようにする。	職業など卒業後の進路に必要となることについて理解すること。		実習先で生産している物が、社会でどのように利用されているかが分かる。 製品の良否が分かり、不良品を出さないように注意して仕事をすることができる。 実習先でいろいろなきまりを守ることができる。 仕事に関する自分の分担に責任をもって最後までやり遂げることができる。 状況に応じて自ら職場の人と協力することができる。 実習中の健康、安全及び衛生に注意したり、適切に余暇を過ごしたりして生活することができる。 実習先の上司に質問したり、指示を仰いだりすることや必要に応じて感謝の気持ちを伝えながら作業を進めることができる。		将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価し、表現する力を養う。			実習中に達成できた目標や改善点を振り返り、今後の課題について考えている。 自己の適性について理解を促し、以後の学習において改善を図るために資料にまとめている。 自己の課題を明らかにして解決策を考えている。 職場等で実際に働くことが地域社会への貢献や人間関係の広がりなどにつながることを考えている。		○産業現場等の実習及び事前学習での目標設定や実習に向けての移動手段や持ち物などを確認する学習
高2段階	職業に関する事柄について理解を深めるとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付けるようにする。	職業など卒業後の進路に必要となることについて理解を深めること。		生産品や製品又は商品の名称とその取扱いとその社会的有用性が分かる。 企業の組織体制及び配属された職場の職制が分かる。 分業や協働における責任と職場で必要とされる作業態度が分かる。 自分にも他人にも重要な安全・衛生及び健康の維持が分かる。 休憩時間の余暇の過ごし方が分かる。 通勤時にふさわしい服装が分かる。 通勤時に起きたトラブルに対処することができる。		将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価し、改善し、表現する力を養う。			新規の仕事内容や状況の変化に対応するに当たり、どのような作業指示書があれば理解しやすいかを比較検討している。 新規の仕事内容や状況の変化に対応するに当たり、どのような器具や補助具マニュアルがあれば正確な作業ができるかを比較検討している。 上記の内容についてこれまでの学習経験から見立てたり申し出たりしている。 自己の能力や適性への理解を深め、進路選択に生かしている。		○実習における課題を自分で考える活動